



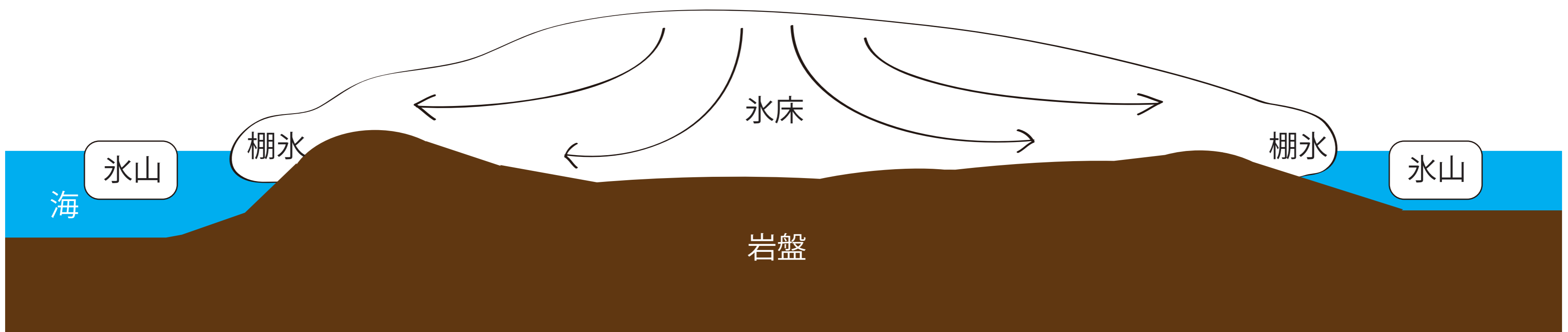
氷の大ぼうけん～陸から海へ～

ひょうが 氷河

雪が降り、夏に寒冷な場所では、降った雪はとけずに積み重なります。雪がたくさん降り積もるほど下の雪は上に積み重なった雪の重さで押し固められ、ゆっくりと氷に変化していきます。この氷が、重力によって流動したものを氷河といいます。氷河は世界各地にあり、ヒマラヤやパタゴニアなどが有名です。近年、日本の富山県立山連峰にも現存していることが分かりました。山岳地帯では、氷河は山頂や山腹にできて、谷の中を流れ下ります。

ひょうしょう 氷床

氷河が巨大なかたまりになり、大陸規模に厚く広がったものを氷床といいます。現在の地球上では、氷床は、南極大陸とグリーンランドに存在します。南極大陸をおおう厚い氷は、南極氷床と呼ばれます。南極氷床は中央がもり上がったドーム状の形をしており、みずからの重みで、ゆっくりと低い海の方に動いています。内陸地域では1年間に数mから数十m、沿岸地域では数百mから数km動きます。氷床の動きがとくに速い部分は、氷流と呼ばれます。

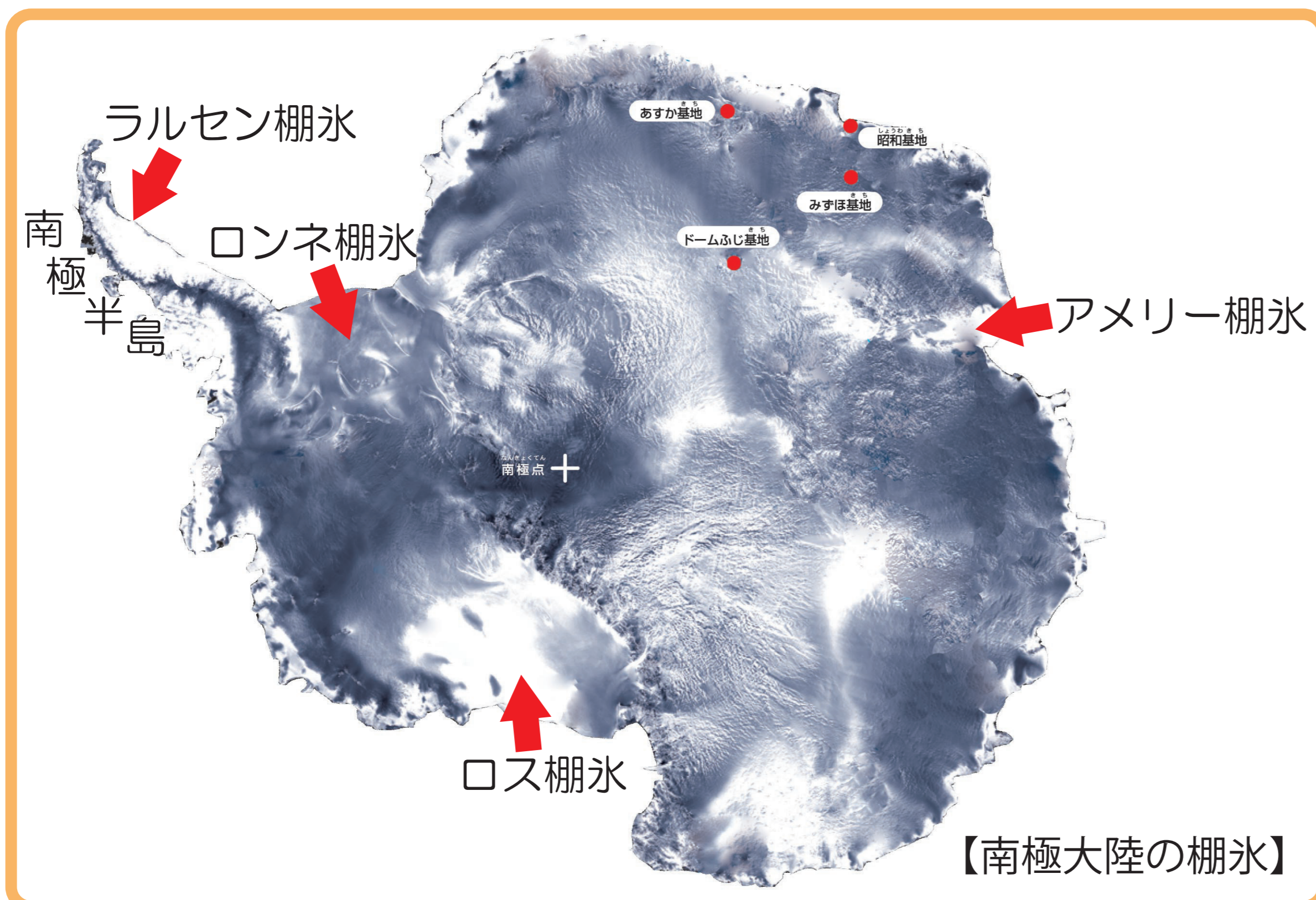


たなごおり 棚氷

氷床が陸から押し出され、割れずに浮いている氷のことです。南極氷床の面積の約1割は棚氷です。厚さが200m以上の巨大な棚氷もあり、とくに大きな棚氷として、ロス棚氷、ロンネ棚氷、ラルセン棚氷、アメリー棚氷があります(下図)。

ひょうざん 氷山

氷河から海に流れ出した氷や、棚氷が割れて海上をただようようになった氷のかたまりです。南極の周辺には、大小あわせて約20万個以上の氷山があるといわれています。南極半島にあるラルセン棚氷(左下図)では20世紀後半になって急速に崩壊が進み、2017年に大陸から分離した巨大な氷山は観測史上屈指の大きさです。



氷床や氷河が海へ押し出されて棚氷になって、やがて海に浮かぶ氷山になるんだ。全部「陸でできた氷」なんだね！

